

## 事業計画書

事業名	WikipediaTown 沼津
場所	沼津市 各地区センター/沼津市市立図書館 地内
実施予定期間	平成29年7月3日 ~ 平成30年3月31日
日程	実施項目・作業項目
	<p><b>日程</b></p> <p>2017年7月上旬 年間計画設立/打ち合わせ</p> <p>2017年7月下旬 第1回 WikipediaTown 沼津開催</p> <p>2017年8月 第2回 WikipediaTown 沼津開催</p> <p>2017年11月 第3回 WikipediaTown 沼津開催</p> <p>2018年1月 第4回 WikipediaTown 沼津開催</p> <p>2018年3月 第5回 WikipediaTown 沼津開催</p> <p><b>実施項目・作業項目</b></p> <p>WikipediaTown とは地域にある文化財や観光名所などの情報をインターネット上の百科事典「ウィキペディア」に掲載し、さらに掲載記事へのアクセスの容易さを実現した街のことを示す。</p> <p>沼津市内にある文化財を現地で見学し、調査報告書などの詳しい記述のある関連著書を調べ対象物の記事を自分で書き Wikipedia に記載する。</p> <p>茨城県水戸市では水戸市がイベントの主催となり「歴史を再発見するとともに、「ウィキペディア」の活用方法や記述の仕方、そしてインターネット社会における情報発信やデータ活用の大切さなどを参加者の皆さんと考える」とし、作成した記事のデータを多くの人に活用してもらおうと既に数回取り組んでいる。</p> <p>Wikipedia は日本のインターネットサイトの中で9番目に閲覧数の多いサイトで、短期間で情報や出典を記録として残し日本全土に情報発信をすることで、沼津市の文化財の認知度が上がり、多言語版への翻訳も民間で行われる為、多言語化の翻訳サイトを作成するなどの手間も省ける。</p> <p>沼津市には数多くの文化財があるが、観光協会や文化財センターから出ている情報量は極めて少なく興味があっても容易に調べられない状況である。</p> <p>この事は一般的に沼津市が文化財の価値や沼津市史を軽視していると取られかねず、何らかの形にして情報や沼津市の活動を記録して残しておくべきである。</p> <p>それに際して WikipediaTown のイベントを開く事で、情報の発信を民間から調査資料の協力などを市から提供する事で公民連携という形で文化財の情報を残すことができる。</p> <p>文化財の研究者や市史の研究者などは高齢化が進んでおり、次世代の担い手が少なくなっているのが現状である。高齢の研究者を客員として招くことや、同世代の活躍して人と交流できる場所として高齢者の参加を促し、図書館を利用する事で参加者に心理的敷居を持たせず、幅広い世代の交流を図る。</p> <p>また、文化財をキャラクター化するという子供向けのプログラムを取り入れる事で親子連れでの参加を可能にする。</p>

<p>事業効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web 検索率の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>2017/4/9 に私達が行った WikipediaTown で新しく記事として書かれた「長塚古墳」については 4 月 9 日から現在までで 6 2 2 件の閲覧数になった</li> </ul> </li> <li>・ 世界への情報発信</li> </ul> <p>&lt;英語版ウィキペディアの沼津市の記事&gt;</p> <p><a href="https://en.wikipedia.org/wiki/Numazu,_Shizuoka">https://en.wikipedia.org/wiki/Numazu,_Shizuoka</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郷土資料への活用</li> </ul> <p><a href="http://www.nal-lib.jp/events/reikai/2016/324report.html">http://www.nal-lib.jp/events/reikai/2016/324report.html</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の価値の再確認</li> <li>・ 情報の活用</li> <li>・ 資料調査活用のスキル向上</li> <li>・ 世代間交流が生まれる</li> <li>・ 情報リテラシー、ネットリテラシーの向上</li> <li>・ 生涯学習成果のアウトプットができる</li> <li>・ 図書館の正しい使われ方が浸透する</li> <li>・ 本格的に調べる際の出典元の確認が取れる</li> <li>・ イベントが終了した後も Wikipedia の編集を通して文化財について触れることができる</li> </ul>
-------------	---

<p>公益性</p>	<p>Wikipedia は現在 295 言語の版があり、日本語版の記事は 105 万件と紙の百科事典より圧倒的に記事の数が多く世界では 6 番目、日本では 9 番目に閲覧数が多いサイトである。</p> <p>民間が Wikipedia に記事を書くことによって、埋もれていた文化財に焦点を当てることが可能となり、公平な目線で文化財の情報を全世界に発信することができる。</p>
<p>発展性</p>	<p>初期段階では古墳にスポットを当てて活動をするが、回を重ねるごとに城跡や施設と対象を広げていく。対象物を変えることで、自分の興味の有る分野についての世代間交流が活性化され、図書館の正しい利用方法が広まることで、図書館の利用率も上がる。</p> <p>イベント参加者は文化財についてより深く知る事で、沼津市の他の文化財についての興味を促進され記事を正しく書く事で情報リテラシーやネットリテラシーも向上され、沼津市の道徳観点が高まり Wikipedia を通して更なる情報発信を行う人物を育てることができる。</p>
<p>地域性</p>	<p>沼津市の文化財に触れることで地域への愛着心が深まり、記事を書くことで後世に語り継ぐことのできる参考文献になる。</p> <p>また、他の地域から沼津市に対して関心を寄せる人が増える。</p>
<p>必要性</p>	<p>古い文化財は自然現象や災害、都市開発により時間の経過によって失われてしまい、記録に残しておかないとそこにあったことを忘れら去られてしまう。</p> <p>また、地域史の担い手が高齢化したり減少している中で市民一人一人が文化財について意識、語り継げるようになることが必要である。</p>
<p>先導性</p>	<p>記事に対しての信頼性を上げるために、Wikipedia の専門家や文化財の研究者に指導をもらいながら記事を書き上げる力をけることができる。</p>
<p>継続性</p>	<p>最終的に沼津市内の国登録の文化財 11 種、県指定の文化財 27 種、市指定の文化財 45 種を全部記事にする予定である。</p> <p>その後は寺院、史跡、文学碑などについて 10 年程かけて執り行う予定である。。</p>